

特501

622

産業労働調査所

秋田県南支局準備会報

No. 1

国立国会図書館



\* 0036440000 \*

0036440-000

特501-622

産業労働調査所秋田県南支局準備会報

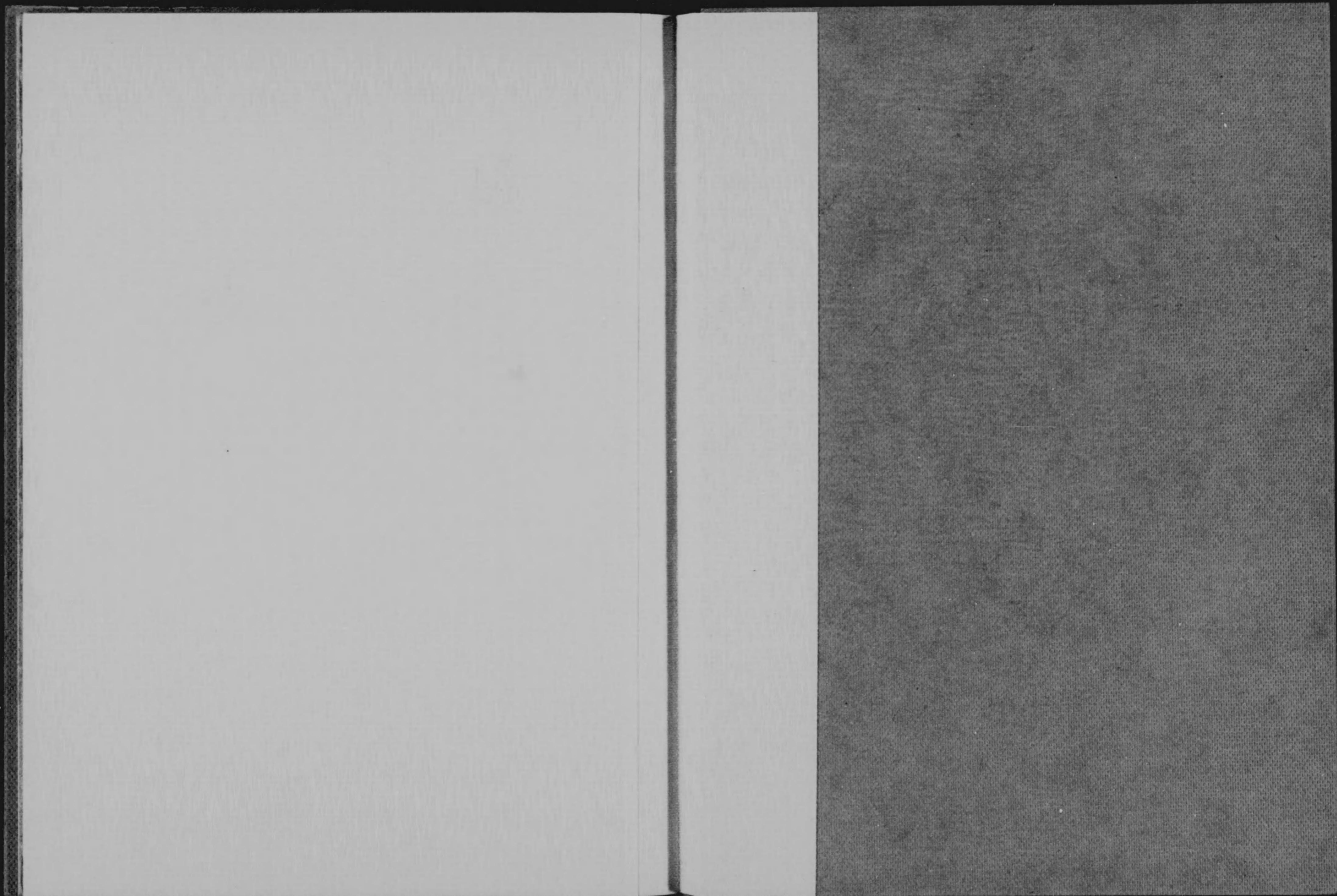
産業労働調査所秋田県南支局準備会

no. 1

昭和7. 10

AGF







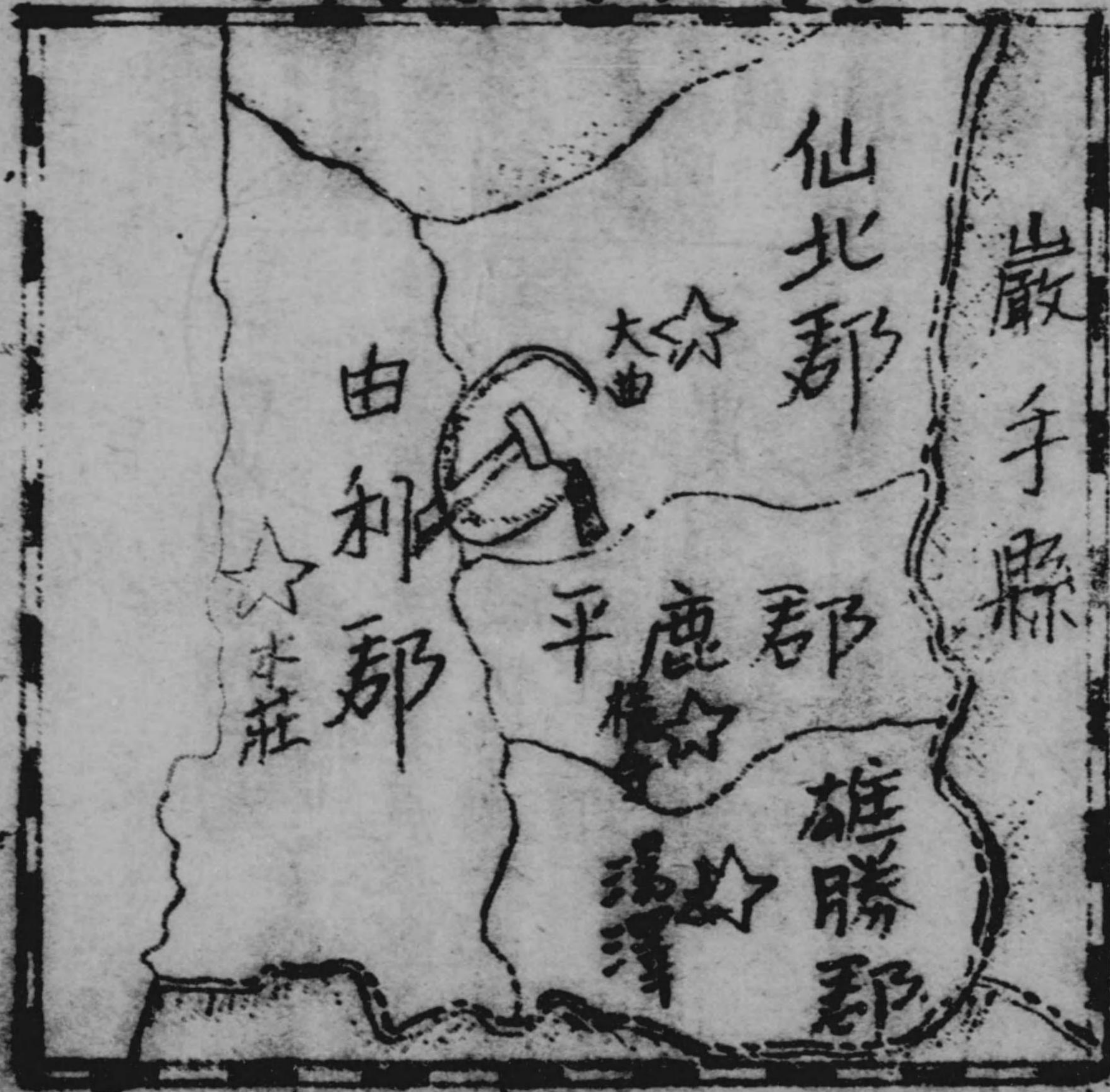
2207-68

特501-622

# 産業労働調査所

## 秋田縣南支局報 準備會報

1932.10.10



NO.1







だが！現在に於けるが如く、獨占資本主義的第三期の經濟恐慌及農業恐慌の深化による大衆の闘争目標が單なる小作料の減額の如き單純なる經濟闘争上の域を脱して、より廣げなる税金・借金・獨占價格に對する日常的闘争、電燈料値下用水問題等に到るまでの生活上のあらゆる問題、部落の隅々までの日常問題にまで発展しに及び、次第に經濟闘争が政治闘争的な濃度を色濃くし、闘争藝術形態が、附近町村と密接なる連帶性を帯びてくるに及び、我々の陣營の強力化及主觀的狀勢の整備といふ立場から此の種の調査機關の設立が絶對的なる要求にのぼつて來たのである。斯くの如き狀勢上の要求にまつて、此の縣南産業支局準備會は中央調査機關たる産業労働調査所の一地方的支局の設立準備會といふ使命の本に生れたものである。支局の任務は縣南四郡（平鹿郡・仙北郡・雄勝郡・由利郡）の

部落の隅々までの調査認識の獲得にまゝ、支局の区域内の調査報告の機關となる事が、其の任務である。支局の報道及調査積極的なる調査は、區域外の國際的国内的な範圍内の事は此れをば、尙故なれば此れ等の事は、中央機關たる産業労働調査所で此れ等の事を執行してゐるからだ。要約すれば、現在客觀的狀勢は絶對に秋田縣南産業労働調査所支局を必要とし要求して居るのである。我々は造らなければならぬ！

革命的プロレタリアートの自主的積極性に依つて！  
 だが現在此の準備會報の一号を手にして見るまで、かゝる設立運動が具體的に実践化されて居るといふ事を知らぬ人が大  
 多數であるのだ。  
 調査上の統制も未着手だ。  
 中央調査機關との連絡も確立されてない。



支局はハッキリした中央部との連絡及調査上の統制、大衆討議  
による、支局テラゼの決定までは、支局の組織せ不、支局設立準備  
会と名付けける。

まして一九三三年の二月の...

- 1. 中央調査機関との連絡
- 2. 調査組織の統制
- 3. 支局テラゼの決定

を支局設立カンパニーとして戦い抜かう。

秋田縣南産業労働調査所支局  
設立準備会

### ④ 縣南に於ける農民運動一 秋田縣南調査報告

#### △ 全国会議派と縣派の對

現在に於ける当地域の農民運動の状況を調査報道をな  
しに當りて、一應過去に於ける状況を史的に調査せずには、

此れを正し、認識は不可能である。

一九三一年後半期に日本帝國主義に依つてなされたる滿洲事

變その他に刺戟されて、農村に於いても、到る所にファッショ化の傾向が

強くあらはれ同時に支配階級の攻撃がうんと強くあらはれた。

地主側は今迄のやうに生ぬるいギマン的方針に頼らふとせず、

暴力団を使つて、警官のヨコゴの下に直接行動をもつて小作料の收

奪をやつた。

小作人側は此れに對して大衆行動を取らふとしたが、事毎に警官  
の圧迫のため犠牲者續出して成功しなかつた。

だが、是れに拘はらふ不、地主小作人間には直接行動による對抗の氣  
運がウツボツとしておこつた。







此の時、秋田縣の左翼は何をなしたか。當時、秋田に於ける左翼の人数は四百名以上に上つた。だが、仙北、由利、雄勝、五能に分散して、統一した強力な組織がなかつた。爲めに、大衆の動搖に對して、確固たる方針の下に指導する事が出来なかつた。さういふ爲に、羊議は惨敗を續けた。

三月の結果、一月初旬、秋田に於いても、たゞ平鹿有志の會日合に於いて、最近、羊議敗北の理由は、縣政指導部に於ける左右兩派の對立であるとの事、たゞの事、此の會日合の直前に、左翼の全果的指導連絡を、強力な組織を要求し、大衆の声が高まつた。一月廿一日、大曲町に於いて、開かれた仙北地区大會で、全國會議支持を表明した。これに、激馬も、たゞ、縣政のクラ、共、刷新同盟打倒運動に依つて、全國會議支持の刷新運動は、時、困難となり、仙北の全果支持に對して、果敢では、事實の陳名、解釋を、

平鹿の刷新同盟の主要分子十数名を、除名した。仙北に於いて、由利、雄勝も、相次いで、會日全支持を表明した。此の形勢に、極度に、激怒した、果敢内の大衆、党衆の、助夫は、平鹿の動搖を、止める爲に、全力を、集、申して、左翼分子を、全、果、採、内、より、一掃、せんと、し、て、一月廿一日の、横、手、の、果、敢、事、務、所、の、議、事、件、と、な、つ、て、現、在、地、區、斯、く、一、應、刷、新、同、盟、は、結、成、さ、れ、た、が、刷、新、同、盟、に、加、入、し、た、地、區、早、く、から、左、翼、の、影、響、下、に、あ、つ、た、五、能、三、重、等、で、縣、政、の、争、議、會、に、接、し、に、果、敢、大、衆、は、果、敢、死、の、覚、悟、を、示、し、た、。流、北、込、ん、で、來、た、。さ、れ、は、三、月、九、日、秋、田、縣、評、議、會、確、立、と、共、に、大、衆、覺、悟、道、の、下、に、行、き、結、成、さ、れ、る、羊、議、が、除、名、に、な、つ、た、。道、下、者、權、本、七、尾、等、の、出、発、と、共、に、刷、新、同、盟、を、確、立、し、た、。社、田、縣、評、議、會、常、任、會、日、議、で、過、去、の、方、針、の、批、判、と、共、に、將、來、の、運、動、方、針、を、確、立、し、て、(以下、抄、録、)







(5) 阿氣地區  
 川西 八根 根森 八根 根森 八根 根森  
 阿氣 阿氣 阿氣 阿氣 阿氣 阿氣  
 會川 會川 會川 會川 會川 會川  
 青年部 青年部 青年部 青年部 青年部 青年部  
 醒酬第一信婦人部 醒酬第一信婦人部 醒酬第一信婦人部 醒酬第一信婦人部 醒酬第一信婦人部 醒酬第一信婦人部  
 少年部 少年部 少年部 少年部 少年部 少年部

---

金會支持 金會支持 金會支持 金會支持 金會支持 金會支持  
 縣聯 縣聯 縣聯 縣聯 縣聯 縣聯  
 〃 〃 〃 〃 〃 〃

---

四 五 三 二 一 〇  
 三 七 五 〇 〇 〇

(6) 雄勝郡  
 吉田 吉田 吉田 吉田 吉田 吉田  
 吉田地區 吉田地區 吉田地區 吉田地區 吉田地區 吉田地區  
 醒酬第一 醒酬第一 醒酬第一 醒酬第一 醒酬第一 醒酬第一  
 青年部 青年部 青年部 青年部 青年部 青年部  
 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎 山崎  
 湯野 湯野 湯野 湯野 湯野 湯野

---

金會支持 金會支持 金會支持 金會支持 金會支持 金會支持  
 縣聯 縣聯 縣聯 縣聯 縣聯 縣聯  
 〃 〃 〃 〃 〃 〃

---

八 四 〇 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〔平鹿郡〕  
 沼館地區 沼館地區 沼館地區 沼館地區 沼館地區 沼館地區  
 沼館 沼館 沼館 沼館 沼館 沼館  
 福地 福地 福地 福地 福地 福地  
 大沢 大沢 大沢 大沢 大沢 大沢  
 里見 里見 里見 里見 里見 里見  
 睡合第一 睡合第一 睡合第一 睡合第一 睡合第一 睡合第一  
 第二 第二 第二 第二 第二 第二  
 十五字地區 十五字地區 十五字地區 十五字地區 十五字地區 十五字地區  
 十五字 十五字 十五字 十五字 十五字 十五字  
 三重 三重 三重 三重 三重 三重

---

金會支持 金會支持 金會支持 金會支持 金會支持 金會支持  
 縣聯 縣聯 縣聯 縣聯 縣聯 縣聯  
 〃 〃 〃 〃 〃 〃

---

三 三 二 三 四 二  
 三 九 五 〇 〇 〇

(3) 横手地區  
 横手 横手 横手 横手 横手 横手  
 横手地區 横手地區 横手地區 横手地區 横手地區 横手地區  
 醒酬第一 醒酬第一 醒酬第一 醒酬第一 醒酬第一 醒酬第一  
 增田 增田 增田 增田 增田 增田  
 境所 境所 境所 境所 境所 境所  
 旭 旭 旭 旭 旭 旭  
 朝倉 朝倉 朝倉 朝倉 朝倉 朝倉  
 吉田地區 吉田地區 吉田地區 吉田地區 吉田地區 吉田地區  
 吉田 吉田 吉田 吉田 吉田 吉田  
 醒酬第一 醒酬第一 醒酬第一 醒酬第一 醒酬第一 醒酬第一  
 旗舞 旗舞 旗舞 旗舞 旗舞 旗舞  
 植田 植田 植田 植田 植田 植田

---

金會支持 金會支持 金會支持 金會支持 金會支持 金會支持  
 縣聯 縣聯 縣聯 縣聯 縣聯 縣聯  
 〃 〃 〃 〃 〃 〃

---

七 四 七 〇 〇 〇  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇











税金不納同盟、電燈料値下同盟等の形態で、大衆的な  
 闘争を組織する。又かゝる闘争  
 意識の拡大強化を圖り得る運動を云い、又かゝる闘争  
 を通じて、部落世話役を造り、部落新團の発行及  
 農村自衛団を造つて行かなければならぬ。  
 と規定されて居る。  
 一九三三年以前の農民組合運動は一般的に学議請員部  
 的運動であつた。此の運動戦術形態は一九三三年を通  
 じて、部落の隅々までの日常闘争的戦術形態たる  
 農民委員會運動へと発展したのである。

附記

此の文で現在起つて居る学議の内容分析報道  
 をしる予定だったが資料缺乏の爲に第二号に所  
 載しる予定だ。君達の周圍に起つて居る学議を月  
 末までによく調査して事ム所に送つてよこしてくれ!!

△調査網の組織統制に關して

巻頭文の準備會に關する概の結語として「設立カンパの  
 三つのテッセのつとして調査網の組織統制の件が取り上げ  
 られて居た。此の調査網の組織統制の件は、調査網の  
 中で最も重要な事として最も手間の掛る問題であるのだ。  
 此の調査網の事は今年中に農南期を利用して十一月―十二月  
 間、地区の調査代表者會議によつて討議の後決定したい  
 と思つて居るが、  
 其の前には此處で大体の要旨だけを記載しる。  
 調査の地域別單位は、郡町村ではなく本誌の十頁から  
 十四頁までにある組織人員表にある地区單位としべきだ  
 と思ふ。  
 地区單位として、地区に一人の調査地区代表者を置き、



地区内の支部(例へば沼館地区の支部は沼館・福地・大沢・里見・睦合第一及第二が支部だに各一人宛調査員を置く。此れを同一...

産業労働調査所

支局



支局調査員は部落世話役・農民委員及組合・文化サークルと密接な関係をとりて居て部落の調査及支局よりの調査指令による調査活動をたしその実践を地区代表と協議の上地区代表の手を經て支局に送り支局報は支局から地区代表に送り地区代表が之を配布して、誌代を集めて支局事務所に送る。

此水が大体の調査組織の目論見だ。右のとおりと思ふ方法があつたらしく積局的にドシシ／＼云々... 調査活動も実践を経て次第に變更改正して... 決定は本年内に... 決定後、その詳細を本誌に発表する

支局準備會組織部

附記

調査員は部落擔当以外に工業商會銀行あらゆる獨立せる企業内職場内に獲得し存ければならぬ。





プロレタリア一行智識

◎ 曲辰村調査の報告

(平鹿郡増田町字八木)

村落別

八〇戸

家数平均 八人

一家の労働人員 二人弱

耕地面積

四〇町歩

水田 一町歩

自作小作戸別数

自作 四戸 耕地 水田 三町

小作 七拾六戸 耕地 水田 三拾七町

畑 二反

耕地所有戸別 (自作農四戸)

最高 四町 最低 二町

経営面積

水田 (一家平均) 五反

畑 (一家平均) 五畝

耕地所有地主数

最高 五町 最低 一町

全部増田町居住の地主 六戸

飯米に充てた方 六戸



米生産

米生産——反当收穫  
 反当收穫は十年前より増加した  
 が五年前より増加は倍加した  
 原因は金肥を十年前より  
 使用し始めた為で、増加の  
 増境として見れば増加  
 野菜——主として自家用  
 副業生産——笠の織り  
 生産期間——農家は一年中  
 生産者——一本ハズ、五年前廿五美  
 生産者——主として女一戸平均八  
 販賣方法  
 生産者も主として増加  
 計割があつたが失敗

出稼

出稼——出稼先は此の字の半数  
 は増田町へ行く  
 仕事は主として土方地主の  
 家の手向取、地主家の家事、傳  
 賃銀——五〇美、一〇〇美、二〇〇美  
 現在失業状態である  
 東京、指名人出稼（天倉清組）  
 貸銀——一〇〇美、二〇〇美  
 都市失業業者者方し  
 負債——一戸平均一〇〇円  
 土地——肥料、屋敷、借り、居る  
 原因は不作、物價安等なり  
 税金——租税免除者一〇〇人  
 公租公課——七拾円、一〇〇円……  
 農家賃格美外になし

信用組合——組合員廿名、借金一〇〇美  
 在野軍人会——班組織人員廿名  
 青年団——年俸一六才一廿五才  
 一若し青年は階級運動に無関心  
 青年訓練所——成績良し  
 青年団と組合は目下對立状態  
 婦人の状態

婦人会——一才人加入、会費十銭  
 年に三回集會を催し、坊主及  
 校長の反動的説教を聞く  
 婦人出稼——東京五人  
 女郎として——浜松三人  
 婦人は總て階級運動に無関心

児童の状態

児童の状態——児童八拾人  
 飲食児童七人、空辯当を持  
 つて行く、児童児童（はま）  
 及び用品貸與

政黨關係

政黨關係——以前は民政黨の  
 地盤であつたが、現在關係なし  
 買収金の多寡に應じ、一口五拾銭  
 闘争の経験  
 昨年一九三〇年、不納同盟を組  
 識（指八人）此れに對して地主側  
 は興農會（五拾人）を造つて、  
 對抗興農會の親玉は増田  
 町の二百町歩の地主、佐藤清十  
 郎、小泉五兵衛、酒屋銀行電  
 力等の重役、争議の際には暴  
 力団（廿名）を組織  
 平時もその守衛を専ら所し、要員



### B戸別調査

家族總數 十二名(男五女七)

以分働員 男三女一

小作面積 五反五畝

田(一毛作)五反 畑(下畑)五畝

小作料(一田) 当反四斗俵四俵

(畑) 米納坪当一合

曲農産物

米・野菜(天根・午蕪・人参)

米 生産高 四拾五俵(反当九俵)

生産額 二百一十四円俵 四百八十八

敗費(米・飯米として)二分に不足

生産費 反当約三拾五円 (地代を含む)

### 副業生産(空の箱)

一日の生産高 六本(一本八匁)

一年に三百日働く 生産費五匁

敗費額 一日 四十八匁

六年前は一本五匁で一日一匁五拾

銭の手向になつたものだ。

敗費方法

仲賣員人に賣るのが普通だが、仲

賣員人の来るのを待つて居れば、

其の日の生活に困るので増田町に

事もある。

曲農産物外収入

地主の三町半所有の所に日傭に行く、

日給七匁五匁 毎日支拂はれる。

一年間に百五拾日位働く

一日の労働時間 十二時間(休時間二時間)

現在組合員だが爲傭は存しない。

### 生活費

農業収入と農業外収入の關係

農業収入は自家用に足らぬ

農業外収入 日傭収入 百円

副業収入 九拾五円

生活費として一年では不足

借金(地主から)一五〇円(利息五分)

税金 戸數割 一四二拾銭

町税附加税 七四二拾九匁

家屋税・其他 二四八拾匁

果税 二四二拾九匁

公課 農會費 拾匁他なし

尚ほ、学用品代(四人分)として年

四円八拾銭出す

### 曲農会(加入)

産業組合(不参加)

在所(加入) 青年団(二名加入)

消防組(不参加) 婦人会(一名加入)

農民組合(加入)

一九三三年單獨組合に加入し、現

在主要農産物組合員である。

消費組合(不参加)

副業の経験

昨年不納同盟で平の同盟員の

結束が破れて失敗(片)

附記 これを基に本にして調査し

尚参考資料として産務発行

の右の二書とシンする

部別農家別農村調査の報告

送料共十二匁 農村調査要案

送料共五匁



### 資料採集棟

◎水田一反部作るにどれだけの費用が掛るか？

ブルジョア地主政府は今度の臨時議會で問題になつた米價政策と云ふ百姓だましの計劃の參考資料にしるるといふ理由で反動地主的帝國農會に牛耳を取らせて、全国の各府縣農會へ昨年度の水田一反部耕作に掛る費用を調査しるに掛る費用を調査しる。秋田縣でも自作農二十三戸、小作農十五戸にワソイ調べた。その調査実績を次に引用報告しやう。

自作農反当生産費 四拾五円八拾九錢

内譯直接的生産費

△種子(五合)七拾八錢

△肥料(自給)三円拾錢  
金肥 六円三拾八錢

△炊分力(家族)十四圓九錢  
雇入(六日七八) 八円四拾八錢

△諸材料 一円一錢  
四円三拾三錢

△蓄力(三百八) 二円六拾五錢  
直接的生産費 廿六円四拾一錢

### 間接的生產費

△農具 一円三拾五錢 △建物 一円拾五錢

△租稅諸負擔 六円五拾四錢 △土地資本利 子稅 拾四圓拾三錢

△以上間接的生產費合計 拾九円四拾八錢

△生産費 四拾五円八拾九錢

此水の生産收穫高は五五斗新で金目にして三拾三円三拾五錢だ。其の外副収入として

△屑米(一斗七分) 一円五拾五錢

△藁(百五貫) 一三円四拾八錢

△靴(四貫四匁) 一四拾七錢

△初穀 一五貫五百匁 一三拾九錢

△副収入合計 四円七拾八錢

△收入總額 三拾八円拾三錢

生産費が四拾五円八拾九錢で収入が三拾八円拾三錢だ。

これでは自作農が没落して行くのは理の当然だ。其の爲に農業技術の進歩して行くのは次の統計に依つても明らかだ。

一九三一年度の二石当の生産費 二拾四円四拾一錢

一九三二年年度の二石当の生産費 二拾一円四拾三錢

約三円の減で二〇%の減だ。



次に小作農の方はどうであるか  
 小作農反当生産費 四拾九円九拾五美で  
 内譯「直接的生産費」  
 △種子代 七拾七美  
 △肥料(自給) 六円拾五美  
 (購入) 二円參拾美  
 △労力(家族) 八六五  
 拾円六拾七美  
 (雇入) 五六日、二円九拾三美  
 △諸材料 一円拾五美  
 △蓄力 二九日、二円八拾四美  
 △以上直接的生産費合計 廿六円七拾七美  
 「間接的生產費」

△曲辰具 一円三七美 △建物 一  
 円二美 △諸稅諸員擔 六美  
 △小作料 一拾六円拾三美  
 △間接的生產費合計 拾九円拾八美で  
 △生産費 四拾五円九拾五美  
 此れは收穫として玄米二石三斗  
 金目にして三拾三円五拾八美だ  
 その外に副収入として  
 八百圓二円三拾三美の米  
 〇米 五五美 〇穀 一十員二百員  
 二七美  
 △以上副収入合計 三円參拾美

収入總額 三拾三円八拾八錢  
 生産費が 四拾五円九拾五美で  
 収入が 三拾六円八拾八美だ  
 二九日や働けば働く程小作農が  
 借金ばかり増して

◆平鹿に於ける  
 地租免除申請の調査

平鹿の凶作所村は予想以上に  
 増加し横手税ム所に對する收  
 獲皆無の地租免除申請は九月  
 廿四日迄に八千九百五十九筆に達  
 した。昨年の水旱害に因る免除申  
 請一千四拾二筆に對して約九倍の  
 増加で九月申請を受けしものた

から、モロ／＼多くなつて現  
 出作地の本年内は免も再米春  
 後の窮乏状態の深刻なるを予  
 相心して平鹿郡の地主本位農會  
 十月初旬凶作地の協議會を  
 議して、  
 免除申請の出た方、所は郡内の  
 廿五ヶ所村中大森所だけ  
 二百筆以上申請の所村は右の如し  
 吉田村 一六九  
 田根森 一六九  
 黒川 一六九  
 所村 一六九  
 館合 一三九  
 福地 一七五  
 十文字 一三二

加ふるに、  
 福地 一七五  
 館合 一三九  
 所村 一六九  
 黒川 一六九  
 田根森 一六九  
 大森所 一六九  
 吉田村 一六九



### ★平鹿郡の水害被害の概要

平鹿郡に於ける今年秋の作況は深刻な旱害と稻熱病の爲に凶作は免れず。横手税公所の免租調査の必要から、各町村農倉會から取り纏めた。作況予想報告によると、廿五ヶ町村中被害を被らぬ所は一ヶ町村もな。田根森吉田醍醐沼館高氣黒川旭境町等は殊に非度なく、全郡的の作況は大體左の如くである。

無仕附(二十新五反)五分作以下千四百廿七町(四反)七分作(千三百六十六町)

合計 三千四百八十四町九反

### 新作反別一万二千町歩に對し、 ★縣内農倉米倉庫の 在倉米調査

縣穀物調査所の発表によると、九月一日に於ける個人所有保管米總数は、廿五万二千六百六俵。各農倉別にしれば右の如くである。

- △雄勝(九三三)
- △三輪(三〇〇)
- △西馬音内(七九五)
- △田代(四三九)
- △稻庭(一五二)
- △横堀支庫(一八一大)
- △平鹿(二二、二七五)
- △十文字(一三、九六五)
- △浅舞(七、六五四)
- △重見(三、〇〇六)

- △沼館(五、六八〇)
- △大森(三、五四五)
- △大森支庫(二、六八〇)
- △醍醐(五、四六)
- △醍醐支庫(三、二四四)
- △仙北(三、六七〇)
- △後三年(二、〇〇)
- △飯詰(三、七四〇)
- △中仙(一、六六二)
- △四ツ屋(三、四七九)
- △仙北西部(一、八六九)
- △角館(七、一四三)
- △本莊(二、五五三)
- △神宮寺(一、一七九)
- △西目(八、八三九)
- △平澤(一、四六五)
- △金浦(四、四三三)
- △長岡支庫(一、五一五)
- △象潟(二、四四六)
- △小出(七、四九三)
- △矢島(五、三三四)
- △小田支庫(五、六六六)
- △川内(二、二四六)
- △東澤庵(一、〇〇二)
- △鮎川(六、六七九)
- △岩谷(一、四八三)
- △亀田(三、

### 合計 二五三、〇六六俵

一〇四考方(三、三三三)以外略し、近の十ヶ月間に於ける農倉利用状態は、入庫米百九十九万五千六百九十俵、出庫米は百八十八万六千三百七十七俵で、昨年同期より出庫も増加して居ると共に、庫米の増減は、農業の社会化の一面の表はれとも見得る。

だが西マシるに在る庫米の大半は直轄生産者の者で、不生産者たる地主・商人の者である事は、云はすとも明らかだ。

入庫米	一九三一年度	一九三〇年度
出庫米	一八八、三七一	一四二、六五五







◎ 支局月報 調査項目

1. 農村調査

本誌二十三頁にある平鹿郡増田町字ハ木の例が  
三ヶ所、同志諸君と共に縣南四郡の隅々まで調査

2. 地方都市の調査

例へば仙北では大曲、六郷、舟館、平鹿郡では横手、増田、  
角間、川等町の商工業のある附近農村の經濟的  
中心地、史的都市の發達過程を史的に調査し  
現在の階級構成、經濟關係及地方都市的諸企業  
の内容を詳細に調査ししる。

3. 金融機關の調査

主として銀行の調査だ。此れは今後相当重要視し、  
得らるる銀行の内部に調査員、或はシンパ、友人  
を獲得して營業内容の調査成立以後の勞業、狀  
態の調査をししる。

編輯後記

○ 本誌は責任者個人の手で、手工業的  
に生産されたものだ。意に満たない  
点もあらふが許された。  
今後編輯方針の大家化の計劃も  
立て、居る同志諸君も内容批判を  
階級的に事柄所に送つてくれ  
時報は第二号から四頁にしろ予定だ。  
もつとく、内容も充実したものになる  
筈である。  
○ 調査資料はどんなのであつたらう  
横手町前郷字乳堂、藤井善三助、  
酒井隆宛に当分送つてよこしてくれ  
○ 第二号からは六十頁になるのだが、  
誌代は本月末までに階級的に事柄所  
宛に為替たりたにたりて送金してくれ

會計報告

第一号として四部出た  
これに使つた金は  
紙代(一紙) 十條(五紙) 五紙  
原紙代(廿枚) 一、五十錢  
黒主代(一紙) 十、四十錢  
切手代(一紙) 五、三錢  
合計 一、四、三錢だ。  
これを一部十錢で賣ると  
三、四、五、十錢の收入だ。暴利  
をむさがるやうだが、  
餘剰金は支局の政政確  
立(必備書目、印刷機)  
の購入費とした。  
本誌一部十錢  
發行所 調査所 縣南支局  
設立準備會



2007-68

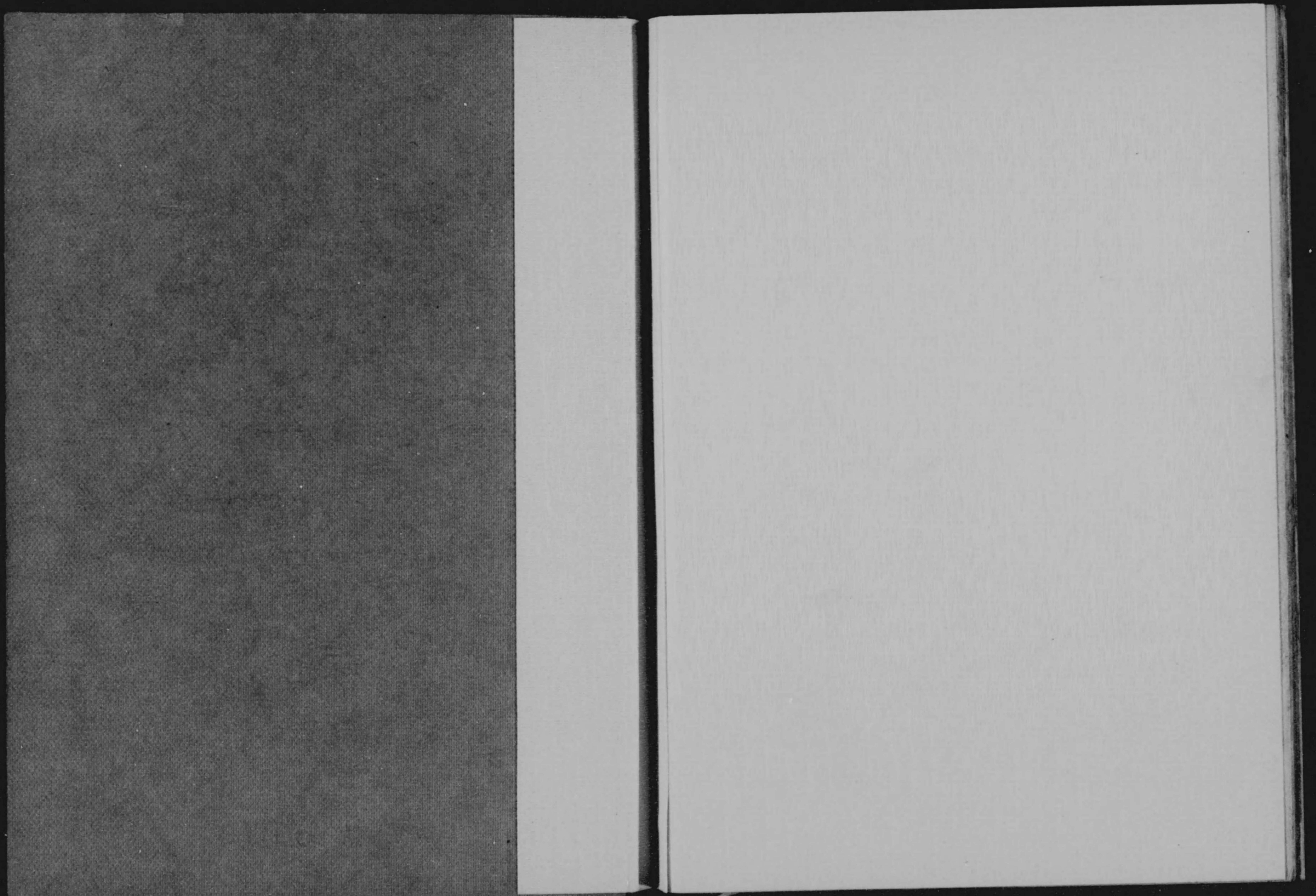
山口 5/21



産業労働調査所  
振替東京六七八九

秋田縣平鹿郡横手町前郷  
酒井隆  
字礼堂







Blank white rectangular label on a dark background.

